

徳山下松港 <Port of Tokuyamakudamatsu>

■港格／国際拠点港湾
■港湾管理者／山口県
■指定年月日／昭和40年4月



徳山下松港は昭和40年4月に特定重要港湾の指定を受け、主として「周南工業整備特別地域」の中核をなす周南地域(周南市、下松市、光市)の石油コンビナート、化学工業、機械製造業等の活発な企業活動を支える工業流通港として、また、徳山地区においては、大分県国東半島及び周南地域周辺の離島との定期フェリー航路等の拠点港として地域の発展に寄与してきました。

近年においては、石炭需要の増大及び貨物のコンテナ化と、船舶の大型化に対応するため、大水深岸壁や航路・泊地、それらを機能的に活用するための臨港道路の整備を進めています。

平成15年には総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)に指定され、海上静脈物流とリサイクル産業の拠点形成に向けた取り組みを進めています。また、平成20年には徳山地区の晴海埠頭が全国で初めて民間企業への長期貸し出しを行う臨海部産業エリア形成促進港の指定を受けました。そして、平成23年には、宇部港とともに国際バルク戦略港湾に選定され、平成28年度に徳山下松港国際物流ターミナル整備事業に着手することになりました。官民連携の深化等を通じ、今後のさらなる物流の効率化や民間企業の国内投資を呼び込むことで、我が国産業の国際競争力の更なる強化が期待されます。

やまぐち「港」物語 - 徳山下松港 -

明治中期、徳山は不況の真っ只中を迎えていました。そんな中注目を浴びたのが海軍練炭製造所の設置問題。全町民をあげての積極的な誘致活動と、徳山が佐世保・呉の港を結ぶ位置にあり製品や原料の輸送に有利な土地柄であることが認められ、設置が決定されました。大正10年には海軍練炭製造所は重油の精製に転換し、海軍燃料廠と改称しました。また徳山港の機能性に着目した様々な企業が続々と工場を創設しました。かくして徳山は工業都市として生まれ変わり、街にも再び活気が訪れました。

特別な産物もなかった徳山で工業が発達したのも、運搬が便利な瀬戸内の中心であり、大型船の入港が可能である天然の良港を持っていたことが最大の要因でした。



←山陽波止場
／もともと内海に面し、漁港として栄えた徳山は、藩主の参勤交代のときは乗船の発着場としても使用され、古い時代から港としての機能をもって発展してきました。写真は昭和10年の風景。



←整備の進む海軍練炭製造所／明治37年に開設され、その後石油の需要が増大したため、さらに施設の拡張整備が行われました。

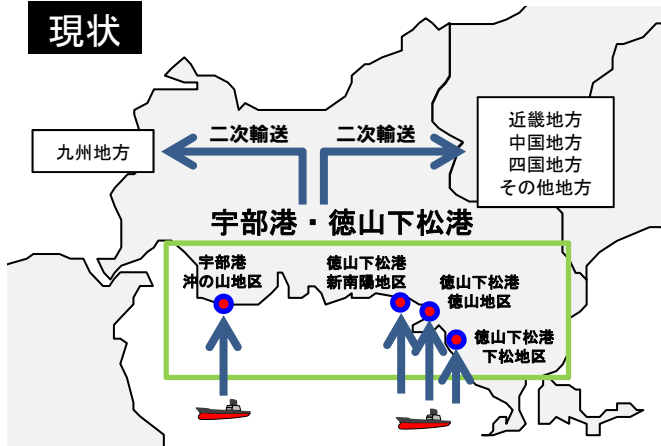
写真／「ふるさとの思い出 写真集 明治・大正・昭和 徳山」より転載

徳山下松港整備事業の紹介 - 徳山下松港国際物流ターミナル整備事業 -



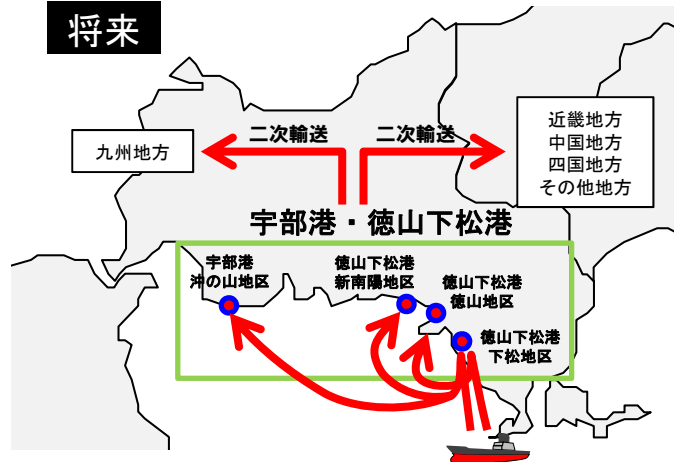
徳山下松港・宇部港における企業間連携の取り組み

現状



・各港各地区に単独輸送により石炭を輸入

将来



・徳山下松港下松地区を経由した大型船による共同輸送により石炭を輸入

徳山下松港及び宇部港には、日本を代表する基礎素材型産業が集積しており、そのエネルギーの殆どは石炭による自家発電で賄われています。また、両港にはコールセンター(輸入石炭の中継備蓄基地)もあり、西日本一円に立地する火力発電所や各種工場への石炭供給拠点として重要な役割を担っています。

現在、企業間連携による大型船を活用した共同輸送を促進することにより、国全体として安定的かつ効率的な資源・エネルギー等の海上輸送網の形成を図ることとしており、徳山下松港及び宇部港は、平成23年5月に、石炭における国際バルク戦略港湾に選定されました。

また、船舶の大型化に対応した港湾施設整備として、徳山下松港国際物流ターミナル整備事業に平成28年度から着手しました。

徳山下松港整備事業の紹介 —新南陽地区国際物流ターミナル整備事業—

新南陽地区



当該地区では西日本最大級の石油化学コンビナートを中心に化学、鉄鋼、金属、ゴム、機械、窯業等の企業が臨海工業地帯を形成しており、原材料の多くを海上輸入しています。

現在の港湾施設においては、水深不足やふ頭用地の不足により船舶の大型化や取扱貨物の増加に対応できない状況であるため、国際競争力の強化、物流の効率化並びに船舶の航行安全を確保することを目的とした、水深12mの国際物流ターミナルを整備しました。

人工干潟の整備

大島地区



干潟は豊かな生物資源の宝庫であり、水をきれいにしたり、人と海が親しむ場であったりと多様な機能を備えています。

大島地区では新南陽地区の港湾事業で発生する浚渫土砂を有効利用し、アサリの生育場としての活用を目的とした人工干潟の整備を平成17年度より平成24年度まで行ってきました。

周南市と地域の漁港、住民と連携しながら効果的な管理を行います。

徳山下松港整備事業の紹介 —徳山地区国際物流ターミナル整備事業—

徳山地区



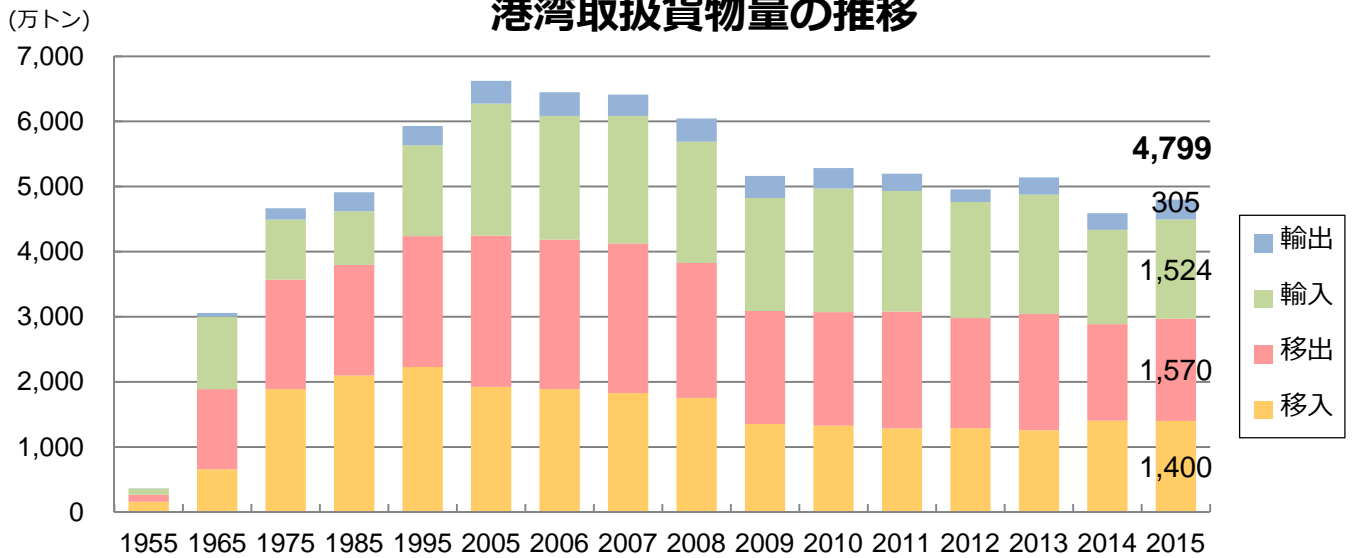
当該地区では、フェリーふ頭やコンテナターミナルなどがあり、石油化学コンビナートを中心に化学、鉄鋼、金属、ゴム、機械、窯業等の企業が臨海工業地帯を形成しており、原材料の多くを海上輸入しています。

現在の港湾施設においては、水深不足やふ頭用地の不足により船舶の大型化や取扱貨物の増加に対応できない状況であるため、国際競争力の強化、物流の効率化並びに船舶の航行安全を確保することを目的とした、水深14mの国際物流ターミナル整備を行っています。

また、平成20年に全国初の「臨海部産業エリア形成促進港」に指定され、背後のふ頭用地や港湾関連用地とを合わせて臨海部産業エリアの指定を受けています。これを受け、企業が石炭バルクターミナルを整備し、平成24年より石炭の取扱いの本格操業を開始しています。

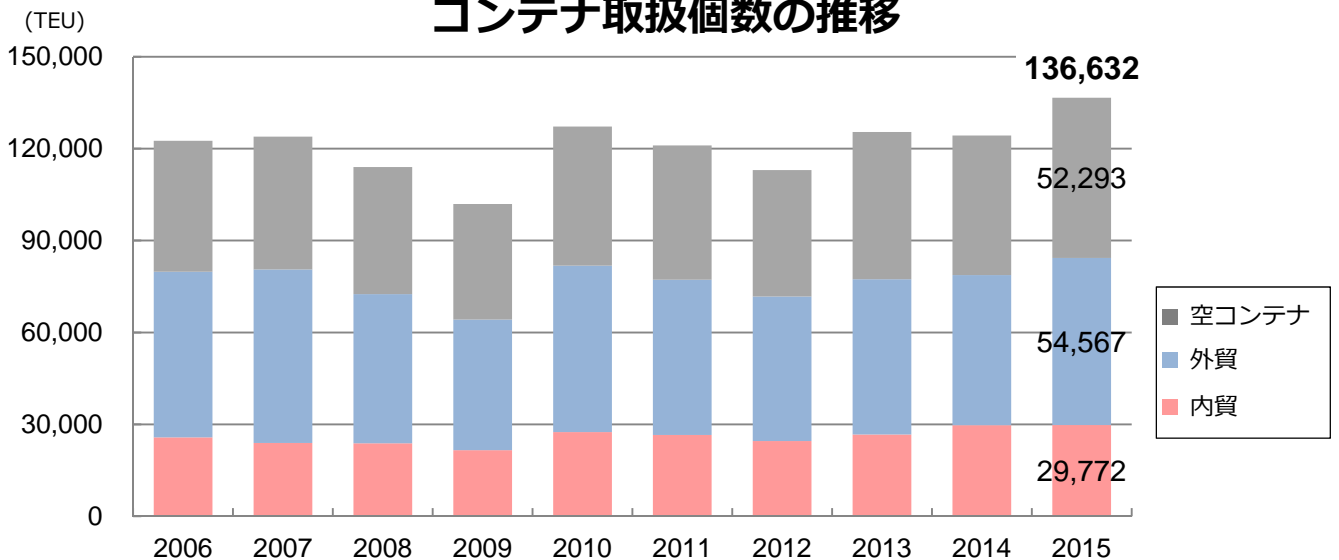
数字でみるみなと - 徳山下松港 -

港湾取扱貨物量の推移



出典：港湾統計

コンテナ取扱個数の推移



出典：港湾統計

外内出入別の主要品目取扱貨物量(2015年)

